

年154社を任意抽出し、平成25年10月から概ね3ヶ月かけて実施した。同調査はマンション管理の適正化の推進に関する法律が平成13年に施行され、マンション管理業者の登録数が2,230社(平成25年度末現在)、マンションストック戸数も601万戸(平成25年度末現在)に達する中で、各登録業者が適正

立入検査結果(平成25年度)概要 全国の管理業者128社を抽出し立入検査を実施

項の説明等の指摘が他に比べ多い結果となっている。一方、契約成立時の書面交付に対する指摘については前回より約7%減となっている。また、財産の分別管理への指摘は全体的には昨年度に比べて減少している。

実施しており、平成25年度においても、マンション管理の事務所等へ立ち入り、適正化法に係る法令の遵守状況について検査を行い必要に応じて是正指導等を実施すること。今年度もマンション管理の適正化を推進していく。検査結果 今回の検査では、昨年度に比べ、違反者は減少したが、制度改正に対する

の5つの重要項目を中心として、全国128社に対して立入検査を行い、50社に対して是正指導を行った。(指導率39.1%・昨年度44.2%)。昨年に比べ、違反者は減少したが、制度改正に対する

重要事項の説明等(法第72条関係) 41社(25社) 契約の成立時の書面の交付(法第73条関係) 24社(17社) 財産の分別管理(法第76条関係) 21社(0社) 管理事務の報告(法第77条関係) 21社(0社) 以上の結果、違反率は減少したが、制度改正に対する

「マンション管理士」制度を活かす 管理会社フロントから「管理士」専業へ 活きた現場情報の尊さを知る

マンション管理士 日下部理絵
一般社団法人マンション管理員検定協会理事



当時の日本は、ITバブルの崩壊や米国同時多発テロによる米国の景気悪化の影響を受け、不景気の真っ只中。大学生は、就職のため、資格の学校などのWスクールをする者が多い時代であった。そんな中、マンション管理に関する新国家資格が誕生するという話を聞く。関東と関西の2大都市で育ち、マンション住まいが日

常的であった私は、直感でこの資格の将来性を感じ、何があっても1回目に合格すると思ったのだ。当然ながら興味をもっていったのは私だけではなく、当時(財)マンション管理センターが、配布した5万5千部の受験案内書は、たった1週間ですべてつくという逸話がある。マンション管理士は社会的なチームを起していた。

その後、資格を活かそういってマンション管理士で独立するなら、マンションの管理会社の実状を知っておいた方がいいだろうと考え、管理会社への就職活動を行い、事務職で内定をもらった。しかし、出社日が始まる日、内定した管理会社の人事から1本の電話がかかってくる。い

ま思えば、この1本の電話がその後のマンション管理士としての活動に大きな影響を与えるきっかけになったのかもしれない。それは、同時期にフロント担当者として内定を予定していた男性が辞退したため、事務職採用ではなく、フロント担当者としての採用に配置転換をしたという相談であった。当時、マンション管理業界はもとより、フロント担当者という職種が何なのかすら知らなかった私は、私で務まるのであれば、と快く内諾をした。

すると、活きた現場情報からトラブルを未然に防止できるだけでなく、問題点に対する提案ができるようになった。また、居住者からの感謝の言葉も肌で感じる機会が増え、仕事が楽しく、やりがいも生まれるという良い循環が生まれた。この現場を大切にするという姿勢、身をもちて感じることが、管理員という職種は、一見すると監視されがちだが、フロント担当者とともに管理会社の「顔」として、活きた現場情報からトラブルを未然に防止できるだけでなく、問題点に対する提案ができるようになった。また、居住者からの感謝の言葉も肌で感じる機会が増え、仕事が楽しく、やりがいも生まれるという良い循環が生まれた。

この経験をもとに、このように、マンション管理士としての活動が、これまで全6回の試験を実施し、述べ受験申込者数4,409名にもなる「マンション管理員検定の資格制度である。なお、第7回マンション管理員検定試験は、9月28日(日)に実施。詳しくは、03-3524-8150(検定事業部)まで。

マンション管理の専門家として、マンション管理士資格の活かし方

■マンション管理士試験の受験発表
平成13年(2001年)12月9日、当時、大学生だった私は、自宅から片道2時間かかるであろう会場で、他をよめぬ集中力のなか2時間を過ごした記憶がある。

当時の日本は、ITバブルの崩壊や米国同時多発テロによる米国の景気悪化の影響を受け、不景気の真っ只中。大学生は、就職のため、資格の学校などのWスクールをする者が多い時代であった。そんな中、マンション管理に関する新国家資格が誕生するという話を聞く。関東と関西の2大都市で育ち、マンション住まいが日

常的であった私は、直感でこの資格の将来性を感じ、何があっても1回目に合格すると思ったのだ。当然ながら興味をもっていったのは私だけではなく、当時(財)マンション管理センターが、配布した5万5千部の受験案内書は、たった1週間ですべてつくという逸話がある。マンション管理士は社会的なチームを起していた。

その後、資格を活かそういってマンション管理士で独立するなら、マンションの管理会社の実状を知っておいた方がいいだろうと考え、管理会社への就職活動を行い、事務職で内定をもらった。しかし、出社日が始まる日、内定した管理会社の人事から1本の電話がかかってくる。い

ま思えば、この1本の電話がその後のマンション管理士としての活動に大きな影響を与えるきっかけになったのかもしれない。それは、同時期にフロント担当者として内定を予定していた男性が辞退したため、事務職採用ではなく、フロント担当者としての採用に配置転換をしたという相談であった。当時、マンション管理業界はもとより、フロント担当者という職種が何なのかすら知らなかった私は、私で務まるのであれば、と快く内諾をした。

すると、活きた現場情報からトラブルを未然に防止できるだけでなく、問題点に対する提案ができるようになった。また、居住者からの感謝の言葉も肌で感じる機会が増え、仕事が楽しく、やりがいも生まれるという良い循環が生まれた。この現場を大切にするという姿勢、身をもちて感じることが、管理員という職種は、一見すると監視されがちだが、フロント担当者とともに管理会社の「顔」として、活きた現場情報からトラブルを未然に防止できるだけでなく、問題点に対する提案ができるようになった。また、居住者からの感謝の言葉も肌で感じる機会が増え、仕事が楽しく、やりがいも生まれるという良い循環が生まれた。

この経験をもとに、このように、マンション管理士としての活動が、これまで全6回の試験を実施し、述べ受験申込者数4,409名にもなる「マンション管理員検定の資格制度である。なお、第7回マンション管理員検定試験は、9月28日(日)に実施。詳しくは、03-3524-8150(検定事業部)まで。